

【第3回無料セミナー「誰が子どものスポーツをささえるのか？」】
子どもの”スポーツ離れ”を食い止める
-保護者の負担がない少年野球チーム作りから学ぶ-
11月29日(水) 19時より開催
中桐 悟氏(練馬アークス・ジュニア・ベースボールクラブ 代表)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団(東京都港区赤坂 理事長:渡邊 一利 以下、SSF)では、これまで子どものスポーツ活動に対する保護者の関与の実態や意識を明らかにする研究を行い、子どものスポーツ活動において、保護者の負担は母親の負担が大きい構造であることなど、さまざまな課題を明らかにしてきました。

少子化や家族のあり方の多様化が進む今、どのような家庭の子どもでもスポーツを楽しめる環境、周囲のサポート体制が求められます。そのために必要なことは何か。有識者を交え、子どものスポーツを「ささえる」視点から考えるセミナー『誰が子どものスポーツをささえるのか?』を複数回開催しています。

第3回は、2021年4月に保護者の業務的負担をなくした、練馬アークス・ジュニア・ベースボールクラブを立ち上げた中桐悟氏が登壇します。保護者の負担なしでどのように運営しているのか、チームの立ち上げから現在までの道のり、そしてこれからの少年野球チームの在り方などについてお話いただきます。子どもの野球離れ、スポーツ離れという大きな問題がある中、持続可能な子どものスポーツ環境の構築のヒントになればと考えております。なお、中桐氏は初の講演となります。

以下の日程で行いますので、ご参加、ご取材のほど、何卒宜しくお願いいたします。

第3回セミナー概要

子どもの”スポーツ離れ”を食い止める -保護者の負担がない少年野球チーム作りから学ぶ-

- 【日時】 2023年11月29日(水) 19:00~20:30(予定)
18:30開場
- 【開催形式】 ①会場参加 ②オンライン(Zoom)によるハイブリッド開催
- 【会場】 日本財団ビル 2階 大会議室(東京都港区赤坂1-2-2)
- 【参加費】 無料
- 【申込】 報道関係の方は、メール(info@ssf.or.jp宛)、もしくはFAXにて申し込みください。
報道関係以外の方は、SSF公式サイトからお申し込みください。
https://www.ssf.or.jp/dotank/seminar/children_youth2023_02.html

【登壇者】

中桐 悟氏(練馬アークス・ジュニア・ベースボールクラブ 代表)

三児の父。既存の学童野球チームの運営体制に疑問を感じ、2021年4月にゼロからクラブを立ち上げた。クラブは練馬区、板橋区を拠点に、連盟非所属の独立チームとして活動。「保護者の業務負担一切なし」「罵声や高圧的な指導を完全禁止」「勝利至上主義の否定」など9つの約束を掲げ、野球を通じた子どもの成長を目指す。自身の野球経験は乏しいため必要なリソースを各分野から集めてチームをコーディネートしている。BFJ公認野球指導者<U-12,U-15>資格保有、会社員。

コーディネーター 宮本 幸子(SSFスポーツ政策研究所 政策ディレクター)

SSF「小学生のスポーツ活動における保護者の関与・負担感に関する調査研究」担当者。

第3回無料セミナー「誰が子どものスポーツをささえるのか？」参加申込書(FAX)

■お申し込みから開催当日参加までの流れ

- ①下記より、**FAX** もしくは**メール**にてお申し込みください。
- ②開催当日までに、視聴 URL をお送りいたします。
- ③開催当日は、18:30より会場へお入りください/オンラインの場合は、視聴 URL より入室ください

フリガナ	
ご芳名	
貴社名	
部署名	
電話	
E-mail	
参加形式 ※どちらかに ○で囲んでください	① 会場 ② オンライン

申込締切:2023年11月28日(火) 12:00

FAX もしくはメールにてお願い致します。

- ① FAX : 03-6229-5340 まで本状をお送りください。
- ② メール : info@ssf.or.jp 宛 タイトル:第3回保護者セミナー取材申込
「氏名」「貴社名」「部署名」「電話番号」「参加方式」をご記載ください



【会場所在地】

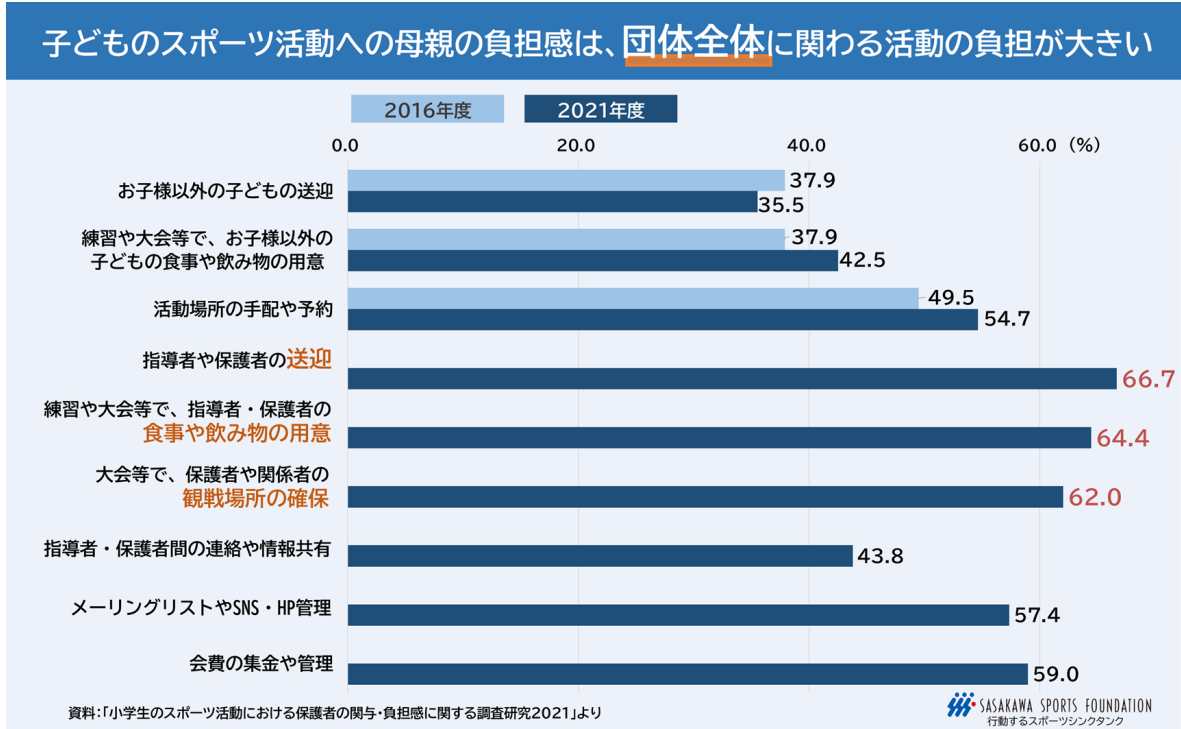
〒107-0052
東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3階
TEL : 03-6229-5300

【会場アクセス】

- ・ 東京メトロ 銀座線「虎ノ門駅」3番もしくは11番出口より徒歩5分
- ・ 東京メトロ 南北線・銀座線「溜池山王駅」9番出口より徒歩5分
- ・ 東京メトロ 丸ノ内線・千代田線「国会議事堂前駅」3番出口より徒歩5分

【参考資料：小学生のスポーツ活動における保護者の関与・負担感に関する調査研究】

■2022年2月発表「子どものスポーツ活動への母親の負担感は、団体全体に関わる活動の負担が大きい」
 子どものスポーツ活動への母親の負担をみると、「指導者や保護者の送迎をする」(66.7%)、「練習や大会等で、指導者・保護者の食事や飲み物を用意する」(64.4%)、「大会等で、保護者や関係者が観戦する場所を確保する」(62.0%)、が上位3つとなっている。子どものスポーツ活動への母親の負担感は、団体全体に関わる活動の負担が大きいことが分かる。



■2023年1月発表「保護者の当番の“大変なイメージ”が、子どもをスポーツから遠ざける可能性」

当番をめぐる実態を、「当番をしている母親」「当番はしていないが、スポーツ活動をしている母親」「当番を理由にスポーツ活動をしない母親」「その他の理由でスポーツ活動をしない母親」にわけて、全体の分布を示した。対象となる母親全体を母数にすると、現在当番を担当している母親は7.5%にすぎない。しかし、当番の負担を理由にスポーツ活動を敬遠する母親は26.1%にのぼる。

